

研究員・技術員認定について拡大窓口交渉が行われる。

話にならない認定状況、労組の危惧が現実になりかねない!!

12月22日、技術員・研究員制度（認定状況も含む）について、拡大窓口交渉が行われました。先の12月7日に行われた認定状況の説明は、以前から労組が求めていた認定状況のデータには程遠いものでした。わずかに示された認定状況も「旧原研の研究手当受給者は基本的には認定される」という以前の説明とは全く違うものでした。労組は、認定の見直しときちんとした説明を求めていました。今回、機構は以前よりもいっけりか詳しいデータを出しましたが、全く納得できない認定状況であることには変わりありません。機構は早急に制度案の見直し、認定の見直しをする必要があります。このままでは許されません。

以下主なやり取りを示します。

[機構] 研究員・技術員認定制度について、すでに認定を行ったが、制度自体は今も交渉中と認識している。

[労組] まだ交渉中なのにかつてな基準で認定を行っているのは問題だが、認定状況も問題だ。この制度の説明の時、「原研で研究手当を受給している人はほとんど支給されるようになる」と言っていた。しかし、我々が知る限りその説明とは程遠い認定状況だ。話が違う。

[機構] 正直、こんなに認定者が少ないとは思っていなかった。

-- 機構は「研究員・技術員合格者の具体的要件例について」と「旧原研部分の認定状況」の資料を出しました。資料では、旧原研研究手当受給者の研究員への不合格率約8%、同技術員への不合格率約75%を示しています。一方、研究手当を受給していなかった人で技術員認定を受けた人が大勢います。かつて研究所が示した「技術員認定を6級へのキャリアパスにしたい」という内容を受けた結果に見えます。--

[労組] この結果は制度以前の問題、研究手当受給者の処遇の大幅な変更につながる。これまでの説明と全然違う。どうするつもりか。

[機構] 技術員はかなり厳しいと言ったはずだが。

[労組] 旧原研の研究手当受給者について技術員は厳しいなどという話は聞いていない。何を言っているのか。認定要件についても、こんな基準では仕事がおろそかになり、資格を取ることだけに一生懸命になってしまう。

[機構] 新法人では研究職、技術職を分けて、明確な基準でやった。

[労組] 誰が認定したのか。

[機構] 経営です。

[労組] 明確な基準と言った。以前示された<認定基準>についても労組は納得していなかったが、今回の認定で使われたという基準は組合に示されもせずに使われている。納得できるものではない。特に、「基本的に旧研究手当受給者には、ほとんど新制度でも支給される」という説明と違う。それに入らないのは経歴に見合った能力を全然発揮できていないような場合と、我々は認識している。こんなに大勢はずれ

る人がいていいはずがない。当該の職員にとっては何の説明もなしに労働条件を変えられてしまうことになる。そんなことは許されない。

[機構] それは何もなければの話だ。

[労組] 何かあったのか？何があったか、個々人に説明できるのか？これでは納得できる説明ができない。研究手当を受給していた人のプライドも含めて何とかしろ。

今日の仕事の有様では、色々な種類の技術・知識が必要でその変化も早い、「資格」のない技術がたくさんある。機構はそういうことを考えているようにみえない。仕事に本当に必要なことよりも、資格取りに熱を上げるようになってしまうぞ。

[機構] 資格取りにまい進するのは、まずいと思っている。

[労組] そちらがそう言っても、示された認定要件の例などはまずい方向に行く内容になっている。技術員認定だが、6級へのキャリアパスにするつもりか？

[機構] 今は過渡期だからとりあえずはキャリアパスにするつもりはない。研究員・技術員制度の肉付けパンフレットの作成を考えている。

[労組] そんなものは、作る前にやるもんだ。将来にわたっても、技術員認定を6級へのキャリアパスにすべきでない。普通の昇給・昇格制度の中で評価されることを、別に技術員認定に持ち込むべきではない。「技術員」の意味付けの問題である。

[機構] 第2回の審査を4月にやる予定です。それから、例年より遅れているが、主任・副主任研究員の審査もやります。

[労組] 4月に2回目の審査と言うが、基本的に旧原研の研究手当受給者は認定されるといった説明がうそにならないようにしろ。制度の始まりからつながるように。

[機構] 研究手当の源資は以前とかわらないので.....

[労組] いまさら何を言うか。そんなことは初めから労使の共通認識だった。労組は技術員の認定基準に「部下の指導・育成...」を入れることに反対し、6級へのキャリアパスにすることにも反対した。そのときに源資は何とかなると言っていたのはそちらだ。今になって、源資が限られているなど、そちらが言えることではない。

[労組 旗開き] 1月 11日(水) 18:30より

場所： 真崎コミュニティーセンター B会議室

20年、30年永年組合員表彰、執行部と組合員との懇談

軽食を用意します。組合員の皆さんお誘い合わせの上お集まりください。

世界的な原子力総合研究所の研究環境を考える（ 9 ）

（ 研究問題対策部 ） - 契約システム GLOBIA/Public について -

職員一人一人がPCを持ち、ネットワークでつながる様になった。より効率的な事務処理を行うため、ネットワーク化によるペーパーレス、速い事務処理、効率化などが一般企業だけでなく、我々のような研究業務にも求められているはずである。日本原子力研究開発機構では、物品購入契約手続きがようやくネットワーク経由でできるようになった。これ自体、原子力研究開発機構においては画期的なことである。しかし、このシステムには、大きな欠陥があるといわざるを得ない。「使いづらいし、研究者にとっては負担が増えただけである」との声も聞かれる。

大きな欠陥とは、このシステムを使うためには「マイクロソフト社」の「ウィンドウズ」がインストールされたパソコンと、それに「マイクロソフト社」の「エクセル」を導入する必要があるということである。さらに、ブラウザに「マイクロソフト社」の「インターネットエクスプローラー」を使わなければならない。研究者の中には、マッキントッシュや、UNIX系のOSがインストールされたパソコンを使っている人がいる。研究に必要なからだ。ウィンドウズにないソフトウェアがある、パフォーマンスが高い、セキュリティが高い、安定性が高い、使い勝手がよい、よく慣れているなどの理由が挙げられる。研究者にも強制的にウィンドウズパソコンを導入しろというのか？しかも、わざわざマイクロソフト社のエクセル付きで。研究費が削減される中、このような出費を強制するのはいかがなものか。このようなことを押しつけるのであれば「違法コピーを防ぐためにも、原子力機構でウィンドウズとオフィスのライセンス契約をするべきである」との声も多く上がっている。

またアクセス時間が限定されているが、研究所内からしかアクセスできないし、パスワードによる保護、印鑑による認証を通さないといけないといった処理があるので、これは意味がない。基本的には、就業時間内で作業を行うべきであろうが、やむを得ない理由で夜遅くなることがある。残業が認められていることから、明らかであろう。原子力機構が、単年度予算制度を取っていること、予算の執行開始時期が遅い、契約書類の締めが早い、納入まで時間がかかるなどの問題があり、深夜までかかってでもできるだけ起票を早く完成させたいといったことがあり得る。

「使いづらい」という点に対しては、早急に修正して、より使いやすいシステムを構築してほしい。伝票係を作って、その人に押しつけているグループもあると聞く。万人に使えるシステム構築を目指すべきであろう。今後、事務および研究の効率化を考え、システムが更新されることを期待して、以下に改善すべき点を上げておく。

- ・ アクティブXで動かすことをやめ、Sunのjavaで動作するようにし、OSやブラウザが変わっても動作するようにすべきであろう。
- ・ このシステムを使用する場合、インターネットエクスプローラーにプラグイン、セキュリティの変更を加えないといけない。セキュリティ上、問題はないのか？このような変更を加えるのは、気分的にも良くない。また、コンピュータに詳しくない人には、手間ひまがかかる。特定の人だけが駆り出されて設定させられている。

- ・ 入力可能時間が制限されているので、これを廃止してほしい。
- ・ レスポンスが遅く、作業に時間がかかる。サーバーのパフォーマンスが不足しているので、改善してほしい。
- ・ 伝票を作成して電子情報とするが、それと並行してExcelファイルをプリントアウトし、紙情報として関係部署を回し印鑑を押すことになっている。これでは、電子化した意味が全くない。電子承認システムを導入するべきであろう。また、出力がExcelファイルなので、書き換えが可能で、電子情報と矛盾を生じる可能性もある。変更できないようにPDFファイルなどで出力できるようにするべきであろう。
- ・ 職員の情報がデータベース化されていないので、電話番号、建屋番号、部屋番号、予算区分などを、起票するたび、いちいち同じ情報を繰り返し入力しなければならない。データベースを導入するだけで、入力する労力をかなり省くことができるようになる。
- ・ システムで扱えるアカウントの数が少ない。使用中に他人が同じアカウントでログインすると、それまで時間をかけて作成してきたデータが破棄されるという。職員全員にアカウントを与えるべきであろう。
- ・ 伝票の作成過程で、複数ページで入力する必要があるので、行ったり来たりで、手間がかかる。ページを統一すべきであろう。
- ・ 入力データは、事務がその処理に使うだけでなく、データベース化して研究業務管理に使えるようにしてほしい。
- ・ 仕様の欄が小さいので、複数の品目があるときに、いちいち別添を付けなければならない。もっと大きくしてほしい。
- ・ 別添ファイルを添付資料として送れるようにしてほしい。
- ・ 経理システムに疎い人には、入力事項がわかりづらいので、ページにHELP機能を付けてほしい。
- ・ 職員だけでなく、嘱託者も起票できるようにしてほしい。嘱託者が職員に頼んで起票してもらっているところもある。

何故こういうものが出来上がったのか？システムを作るとき、研究する現場を無視してきたからでしょう。「起案する側」がシステムの仕様策定に関わらないと、独りよがり、いいものはできないと思います。今からでも遅くないので、使う側の間も仕様変更に参加するように、ユーザー委員会を立ち上げて頂きたい。

（ つづく ）

年末年始慰労金はなし！

年末年始に業務で出勤する職員に対して、慰労金を支給するよう原子力機構に要求書を提出しましたが、機構はその場で拒否しました。